

1958. 冷泉荘が誕生

住宅金融公庫の融資を利用して建てられた、耐火アパートメントハウス



2000～

老朽化により、空室が目立つように。それに伴い、建物自体もスラム化していく。まちのブラックスポットに。



2006.

冷泉荘一棟コンバージョン実験期
まずは若手アーティストに向けたプロジェクト（期間3年間）を実施。

2009.

福岡アジア美術トリエンナーレの会場として提供。福岡のアートやカルチャー発信の拠点へ



2010.

冷泉荘一棟コンバージョン
「リノベーションミュージアム冷泉荘」が誕生。築100年を目標に、「ひと」「まち」「文化」が集まるビルをコンセプトに掲げる



れいぜん荘ピクニック開催
マーケットや各アトリエで開かれる入居者さん企画イベントなど、冷泉荘を丸ごと楽しめる1日。現在も冷泉荘の年間イベントとして毎年開催している。

2011.

耐震補強&大規模改修工事実施
築100年を目指し、建物全体利用の最適化に着手



2012.

第25回福岡市都市景観賞
活動部門 部門賞受賞



2016.

外壁補修工事実施
冷泉荘の歴史をそのまま残したいという想いから、特殊な透明コーティングを採用した「保存」的な改修。



2024.

国の登録有形文化財（建造物）に登録
民間事業者を建築主とした戦後初期のRC造民間賃貸集合住宅として日本初の登録。



まちに開かれ、愛される場をめざして

2010年、築50年をこえた冷泉荘は、古いもの・古いことを大切にする想いを強め、歴史の深い博多のまちに開かれ、愛される建物となるよう「リノベーションミュージアム冷泉荘」として本格始動。2011年の耐震改修工事を経て、「持続的」で「環境的」な建物へ。文化人・芸術家など多業種のクリエイティブな方が集い、イベントも各部屋・レンタルスペースで年間250日以上開催されています。

博多どんたくの源流とされる博多松囃子・稚児流が冷泉荘にも稚児舞の披露にお越しくださり、第25回福岡市都市景観賞の活動部門受賞（2012年）など、冷泉荘の活動が福岡・博多に認められ、まちに開かれた建物となっております。ガイドブックやマップなど観光メディアにも掲載いただき、「まちの文化施設」や「知のサロン」として多くの方に親しんでいただいております。



稚児舞（2025年）



冷泉荘屋上夕涼み会（2019年）



九州DIYリノベWEEK（2021年）



れいぜん荘ピクニック（管理人とめぐるツアー）

国登録有形文化財（建造物）に登録

2024年7月19日（金）、国の文化審議会文化財分科会において、冷泉荘が国登録有形文化財（建造物）として文部科学大臣に答申され、12月3日付で文部科学省告示により、正式に文化財登録原簿に登録されました。民間事業者を建築主とした戦後初期のRC造民間集合住宅として全国初の登録です。集合住宅としての昭和中期の間取りや設えが保存されている「当初部屋」があることをはじめ、所有者の基本理念である“福岡の古い建物を大切にする考え方の実践（ビルストック活用）”に基づき建物の特徴や来歴を尊重した、積極的な保存活用の取り組みが評価されました。

古い建物の魅力や価値を発信し続け、人々の営みの集積となる建物として、これからもチャレンジをする存在であり続けたいと思っています。ビンテージビルが生み出す出会いのちから、ぜひ体験にいらしてください。



冷泉荘正面外観（北西側から）



冷泉荘裏側外観（南から）



冷泉荘共用廊下・A棟階段



冷泉荘B54号室「当初部屋」



冷泉小学校体育祭に写る、築5年ごろの冷泉荘の姿（1963年）
＊所蔵：冷泉自治協議会（冷泉アーカイブス）



古いもの市（2009年）

3年限定の実験的な取り組みと並行して、建物のコンクリート強度試験などハード面の調査を実施。調査結果は良好で、建物はまだまだ長く活用できるとわかり、プロジェクトを継続することとなりました。耐震改修工事や大規模メンテナンスの実施を行いながら、築100年を目指すプロジェクトとして展開していきます。

耐震改修工事へむけた準備段階のなかでは、詩の公募展「冷泉ことは空間」、アンティーク雑貨や古道具などが各部屋に並ぶ「古いもの市」、アジア美術トリエンナーレ第二会場など、建物1棟を使った試みを行いました。古い建物のもつ魅力と、建物をまちに開いていくことの可能性を改めて感じながら第二期へ移行します。



第4回 福岡アジア美術トリエンナーレ2009



耐震改修工事（2011年1月～3月）

さまざまな“最先端”が集まる場

各部屋やレンタルスペースでは、様々な出来事が日々おこっており、文化発信の拠点となっています。



展示



クロネコDay's BLACK CAT STREET 5「water」

落語



月光亭落語会

読書会



もっと！読み方がわかる文学教室

展示販売



和装事変

屋上稲作



たのしイネ

演劇



THE GO AND MO'S「謙造の拳」

おまつり



古代フェス2019

大学公開講座



九州大学リベラルアーツ講座

映画



福岡インディペンデント映画祭

音楽



「アトリエに響く音」
榎木栄一郎 & zerokichi LIVE
@アトリエ穂音

舞踏・ダンス



水上初佳ダンスソロ公演
「Colorful～私を作る世界～」

現代音楽



第三回筑崎千年現代音楽祭
高橋アキ ピアノリサイタル
ジョン・ケージの「ソナタとインターリュード」



冷泉荘 1958 - 2026

老朽アパートから“ミュージアム”へ

1958年に、当時最先端の鉄筋コンクリート民間集合住宅として建てられるも、時代の変遷とともに老朽化、2000年ごろにはスラム寸前のアパートとなってしまった冷泉荘。このままではと一念発起し、2006年、東京・青山の同潤会アパートをモデルにアーティストやクリエイターが集まる3年限定のチャレンジの場として再生。巨大流しそうめん大会や七夕まつり、ワインとともに音楽や演劇を楽しむ周年パーティーなどさまざまなイベントや交流が生まれ、建物に活気が満ち溢れていきました。



スラム化寸前の冷泉荘（2005年）



巨大流しそうめん大会（2007年）

ユニークで親しみある場

冷泉荘の魅力はなんといってもバラエティに富んだユニークな入居者のみなさん。博多人形工房、写真スタジオ、図書室、旅行会社、設計事務所、美容室、靴作り教室、こどもアートアトリエ、アニメーション制作スクール、企画制作事務所、語学教室、ギャラリー、飲食店、まちづくり、アパレル、外国人就労支援など、業種も多彩です。

そしてイベントや観光、レンタルスペース利用などで集まるまちの方々。古い建物をもつオープンで親しみがある雰囲気惹かれて、年間2万人以上の方々に来訪いただいています。年に1～2回開催のオープンアパートイベント「れいぜん荘ピクニック」をはじめ、冷泉荘の入居者さんと親しくなるきっかけもたくさんあります。直接だったり、管理人を通じてだったり、お互いにつながりたいときにつながる事ができるゆるやかな場が形成されています。



A11号 RILL BAGEL



B24号 shoe lab noppo



A51号 テトラグラフ写真室



A33号 楽研サロン